

「境界」と「壁」

みるということ・想像することにおいて、作品そのモノが、「壁」であるかもしれない。
だから、壁に穴をあけたかった。穴から見えるのは、作品ではない(作家の想像ではない)、
作品と観る人の間に起こる何かだ。展示壁に在るのは、作品ではなく観る人の想像だ。
想像は、作家の専売特許じゃない、観る人が想像するからこそ、作品が生きる。
観る人の視点こそが、「境界」を超えますように。